モノヲトリ、停止部ノ形態及ビ大キサニ切除シテ陽型上ノ所定部ニ大體壓接ス、然カル後陰陽型ヲ嵌合シテ壓印シ、壓印シタル停止用純金板上ニ鉤用銀ヲ壓接適合シ、「スチック、ワックス」ニテ兩者ヲ假着シ、又他方鉤括約部トモ假着シテ埋没シ、金鑑ヲ以ツテ鑑着加強シ完成ス。

鉤用銀ノ熱處理

(Heat treatment of Claspwire, by Edward Kennedy, D.

D. S., Dental Items of Interest, 1927, June, 467, Page.)

高度ノ彈性ヲ現ハシ、然カモ適當ナ燒還ニヨツテ非常ニ柔軟ニナリ得ルヨウニ處方サレタ鉤用彈力銀ニ對スル正確ナ熱處理法ハ次ノ如クデアル、先ヅ電氣爐ヲ用意シ、該爐ハ華氏千度マデノ熱ヲ發シ、又支持シ得ルコト、正確ナ熱指針ヲ有スルコト、及ビ千度以下四百度マデノ間ノ溫度ニテハ何ノ溫度ニモ有效ナ變抗器ヲ有スルモノデナケレバナラナイ。

或ル所望結果ハ吹火管使用又ハ自家製裝置ニヨツテ得ラル、クレドモスカル方法ハ熱ヲ一定ニ調節スル事及ビ冷却ヲ調節スル事が、明確デナイ故ニ其方法ニ關シテハ記述シタクナイ。

燒還ハブンゼン火焰中ニテ銀ヲ櫻赤色マデ加熱シ、直チニ水或ハ酸中ニ入レテ急劇ニ冷却スル事ニヨツテ行ハレ得ル、此ノ法デ銀ハ最モ柔軟ナ狀態ヲ現ハスモノデアル。

櫻赤色以上ニ熱セナイヨウニ注意シナケレバナラナイ、斯ク加熱スレバ銀ハ駄目ニナル、又此種ノ銀鑑着時ニハ出來ル丈ケ低イ熱ヲ應用スルヨウ注意シナケレバナラナイ。

斯カル銀ハ鑑ガ熔融スル程度ノ可及的低イ熱ヲ使用スルナラバ、二十二「カラット」鑑デ無害ニ鑑着シ最モ良イ結果ヲ得ル。

形態形成ガ完了シ、鑑着モ終ハリ、模型ニ對スル關係モ檢定シ、要ニ應ジテ修正シ終ツタナラバ鉤ヲ三％硝酸中デ煮沸シ、然シテ爐中デ華氏九百度マデ熱シ該溫度ニテ十分間保ツテ後加熱ヲ去リ、爐ヲ閉鎖シテ爐中デ徐々ニ冷却シ四百度マデ降下シ燒還ヲ終ハルヨウニシナケレバナラナイ。

右ノ如キ燒還法ハ少ナクトモ十五分ヲ要スル、或ル處方ノ銀ニテハ是非三十分ヲ要スル。

市場ニ販賣シテ居ル處方ノ銀ハ冷却ニ長イ時間ヲカケルト、銀ガ脆弱ニナツテ駄目ニナル。

故ニ現在判ツタ範圍内デハ、正確ニ調節シテ冷却時間最少限十五分ハ是非必要デアル。尤モ記述シタ溫度ニ於テ百度位ノ誤差ハ餘リ重要デナイ、華氏四百度以下ノ溫度變化ハ金屬ノ物理的性質ニ何等ノ變化ヲ現ハサナイノデアル。

矯 正 科